

経済学部GP取り組みに関する、卒業生アンケートの結果と分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪市立大学大学教育研究センター 公開日: 2024-09-09 キーワード (Ja): 卒業生アンケート, PE指標, 自己評価, 多変量解析 キーワード (En): questionnaire for graduates, PE-index, self-evaluation, multivariate analysis 作成者: 橋本, 文彦 メールアドレス: 所属: 大阪市立大学
URL	https://doi.org/10.24544/ocu.20171218-147

Title	経済学部 GP 取り組みに関する、卒業生アンケートの結果と分析
Author	橋本, 文彦
Citation	大阪市立大学大学教育. 10 巻 1 号, p.13-21.
Issue Date	2012-09
ISSN	1349-2152
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学教育研究センター
Description	
DOI	10.24544/ocu.20171218-147

Placed on: Osaka City University

■ 報告

経済学部GP取り組みに関する、 卒業生アンケートの結果と分析

An analysis of a questionnaire for graduates about GP project

橋 本 文 彦
大阪市立大学大学院経済学研究科

HASHIMOTO, Fumihiko
Graduate School of Economics, Osaka City University

キーワード：卒業生アンケート・PE指標・自己評価・多変量解析

Keywords: questionnaire for graduates, PE-index, self-evaluation, multivariate analysis

1. 本質問紙（アンケート）調査の背景と 概要

大阪市立大学経済学部では、「4年一貫の演習と論文指導が育む学士力」というテーマのもと、少人数教育の演習型授業を重視しながら、「プラクティカル・エコノミスト（PE）」を養成することを目指して教育改革に取り組んできた。PEとは、社会が直面する課題を的確にとらえ、それを経済学の素養を活かして分析し、解決の方途を他者との協同により複眼的な構想力を持って立案しうる人材を指す。

PE養成カリキュラムとPE指標の概要を〔別紙1〕に示した。PE指標についてより詳しくは、橋本（2010）を参照のこと。

経済学部の教育改革取り組みが文科省GPに採択されたのは、2009年度後期であるが、イノベティブ・ワークショップ（IW）や論文演習などの科目が設置されたのは2008年度からである。

従って、2008年度入学者が多数を占めている2011年度卒業生は、GP取り組みが本格的に始まって以降最初の卒業生ということになる。

この取り組みでは、提供側の私たちが教育カリキュラムおよび提供科目を吟味して改革を行うだけでなく、それらの授業・講義・課外活動（三商大ゼミやインターゼミも含む）等を学修した学生自身が、自己の

修得水準を確認し、それに従って主体的に次に修得すべき内容を考える、というシステムづくりを目指している。

本アンケート調査では、以上の目標のもとで私たちが行ってきた教育改革の取り組みが、果たして学生たちにどのように評価されていたのか、ということ調べのみならず、このような取り組みを経た学生たちが、実際に大学で学ぶことによって、どのような能力をどの程度身につけることができたと感じているのか、またその原因はどこにあるのか、調査することを目的とした。

さらに、学生が「能力を身につけることができた」「できなかった」と評価する決め手（一つとは限らない）となっている原因をあぶりだし、より「効率的に」学生の自己評価を高めるためにはどのような方策が有効か、を調べることをも目的とした。

学生に提示したアンケートを、〔別紙2〕に示した。

回答者は135名である。

このアンケートは、卒業論文の提出時に、事務室内で回答を要請したものであるため、卒業論文を提出していない学生は基本的に含まれていない¹⁾。また、回答は必須ではないので、アンケート対象学生に対する回収率は85%程度であった²⁾。入学年度については質問項目に入れていないので、2008年度以前の入学生も含まれていると考えられる。

2. PE能力の向上

アンケートでは、まずPEに要求される6つのスキル（以下、6S）と1つのアビリティ³⁾（以下、1A）について、大学入学時に比べてどの程度身に着いたかを問うた。

また、それぞれのスキルに対して、そのような自己評価をした理由について、16の項目の中であてはまるものにチェックを入れるよう要請した（複数チェック可）。

集計の際に、「かなり低下した」を1、「若干低下し

た」を2、「変化していない」を3、「若干向上した」を4、「かなり向上した」を5として数値化を行っている。

この質問では、6Sと1Aのすべてのスキルとアビリティにおいて、「若干向上した」と「かなり向上した」との回答を合わせると、75%以上を占めている⁴⁾。（図1A～1Gを参照）

特に、論文執筆のスキルについては、「かなり向上した」が39%、「若干向上した」が50%、と、およそ90%の学生が大学入学時に比較して自己の論文執筆能力が向上したと認識していた。

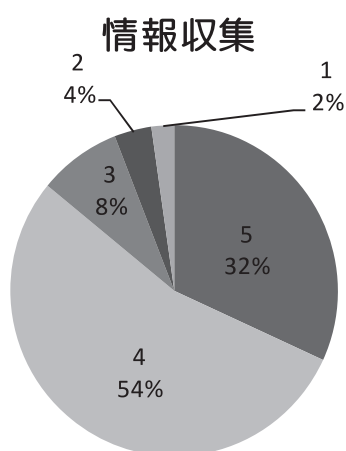


図1A

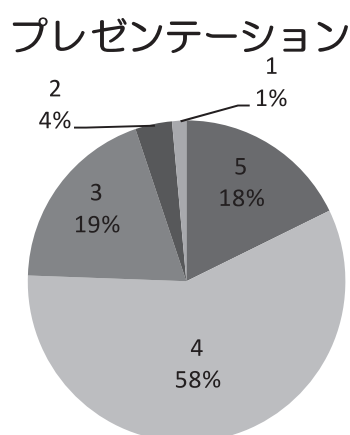


図1B

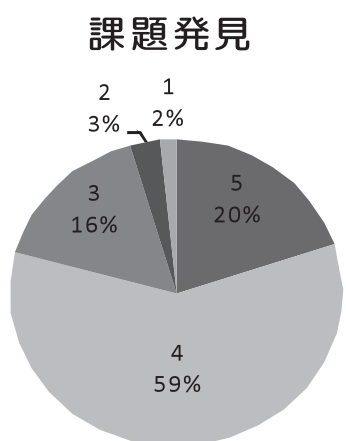


図1C

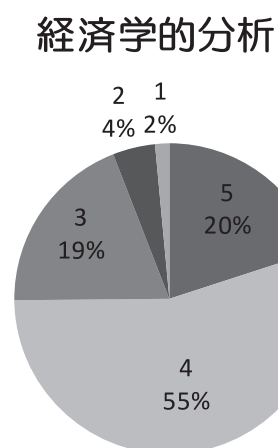


図1D

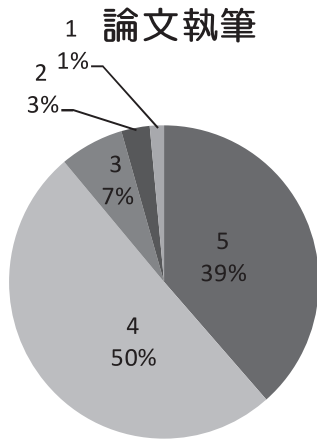


図 1 E

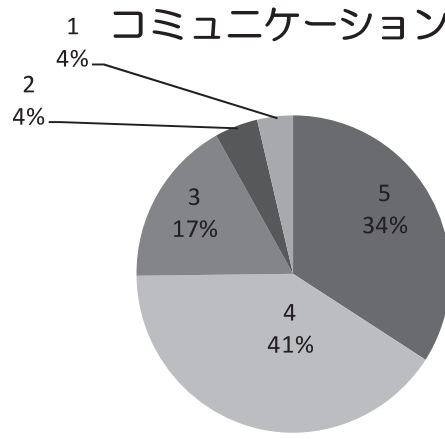


図 1 F

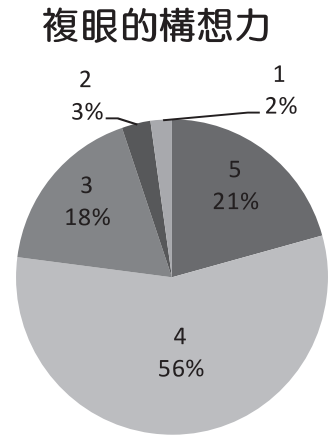


図 1 G

3. PE能力向上の理由

また、6Sと1Aについて、「かなり向上した」と回答した者のみを対象として、「その理由」として挙げた項目をみると、以下のようなことが分かる。(図2A～2Gを参照)

まず、「演習3」「演習4」「卒業論文」は6Sと1Aのすべてにおいて、大きな割合を占めているが、とりわけ「経済学的分析のスキル」と「論文執筆のスキル」で大きな役割を果たしていると言える。一方、これらの項目の割合が最も小さいのは「コミュニケーションのスキル」で、(予想されたことだが)、このスキルでは「アルバイト」「サークル」という項目が大きな割合を占めている。

「論文演習」は他の科目に比較して受講者数自体が多くない(基礎演習の3割程度の人数)にもかかわらず、いくつかのスキルにおいて、「演習3」と同程度の割合を占めている。同様に、「IW」も「論文演習」とほとんど同じ程度に各スキル向上の要因として挙げ

られている。

また、「インターゼミ」と「国際シンポジウム」⁵⁾も参加人数がそれほど多くない(基礎演習の2～3割程度の人数)ことを考慮すると、「プレゼンテーションスキル」の向上の大きな要因として支持されていることが分かる。

「複眼的構想力」のアビリティでは、まさにさまざまな項目が要因としてまんべんなく支持されている。

さらに、「課題発見」と「コミュニケーション」のスキルにおいては、「全学共通教育科目」が一定の要因として支持されていることが分かる。逆に、経済学部の「専門講義科目」は、演習科目の陰に隠れる形で、「経済学的分析」以外のスキル向上の要因としては、あまり大きな割合を占めていない。

全体的に、本学部が「少人数教育の演習授業」として従来から提供している科目に加えて、2段階サイクルとして新規に設定した(IWや論文演習、キャリア形成ゼミなどの)科目群も学生のPE能力の向上に十分役立っていることがこのアンケート結果からもわかった。

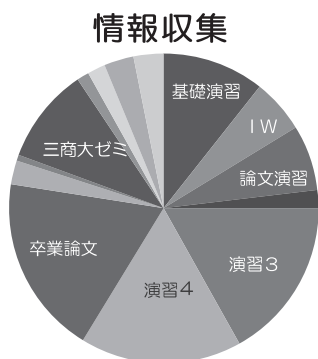


図 2 A

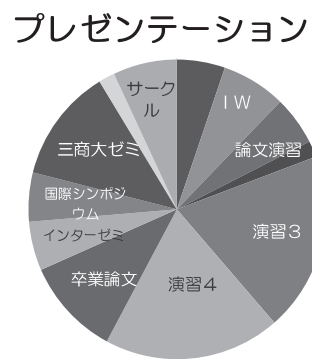
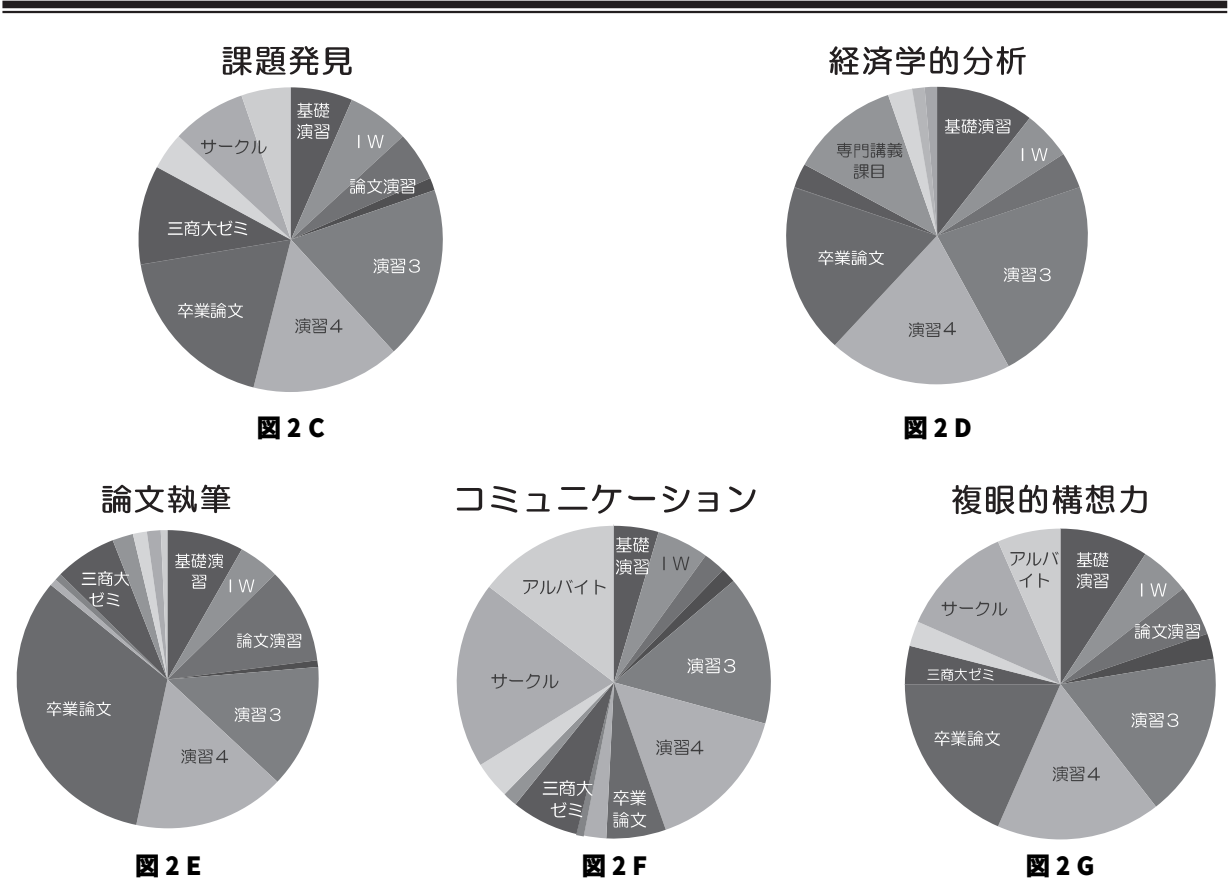


図 2 B



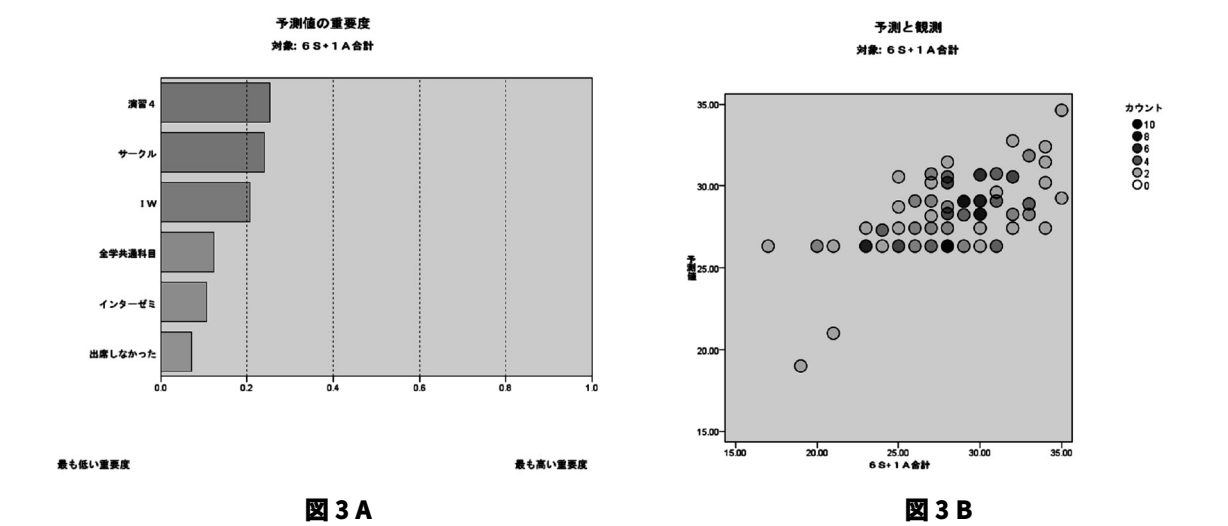
4 . PE能力と提供科目等の関係

次に、この6S+1Aという 7つの評価の合計得点（5 点満点× 7＝35点満点）と、その理由として挙げられている項目との関係を探るために、6S+1Aの評価合計得点を従属変数として、16項目のそれぞれについての合計チェック数（各項目で最大 7）を順序尺度の独立変数として、SPSSの自動線形モデリングによる回帰分析（林の数量化Ⅰ類に類似した統計手法である⁶⁾）。

この結果、上記の従属変数は、図3Aに示す 6つの独立変数との関数関係であらわすことができる。（調整済みR二乗＝0.329）

この結果から、6S+1Aの評価合計得点に大きな影響を与えているのは、やはり「演習 4」であり、「出席しなかった」という要因は、確かにマイナスの影響を与えていることが分かる。

また、「サークル」、「IW」、「全学共通科目」、「インターゼミ」は、6S+1Aの中でも特に、コミュニケー



ション・スキルにおいて大きな割合を占めていた項目であるが、これは、他のスキル・アビリティに比べて、**1～5**の評価のばらつき（偏差）が大きかったために、これらの項目へのチェックの有無が**6S+1A**全体の得点の決め手になったと考えられる。

5. PE指標・学習相談室・PE満足度

次に、PE指標の学生への認知度と学修行動への影響、学習相談室の認知度と理解、さらに、大学での教育全体として、自分が望んだPE能力を身につけることができたか否かの満足度を問うた。（表1A～1Cを参照）

PE指標と学習相談室は、**2009**年度後期から設定・開設されたために、**2010**年度以降の入学生に対しては、要覧に明記するとともに、入学時の学部ガイダンスでその重要性を説明しているが、**2011**年度卒業生に対しては、全体としての説明は行われておらず、経済学部内の各専門講義や演習を通してのみ周知していたが、そのような状態でどの程度の認知度があり、また実際

に学生の学修行動に影響を与えたのか、という点を調べた。

得られた回答と、先ほどのPE指標の**6S+1A**の評価合計得点とでクロス集計を行ったものが次の表である。

6S+1Aの評価合計得点は**35**点であったが、**30**点以上を「高評価群」、**20～29**点を「中評価群」、**19**点以下を「低評価群」としてカテゴリー化してある。

学習相談室についても、上記と同様に、「高評価群」「中評価群」「低評価群」とにカテゴリー化した上で、認知度とのクロス集計を行った。

この結果からやはり**2008**年度入学生にとっては、学年の途中からの設定・設置であったために、PE指標および学習相談室の認知度は必ずしも高かったとは言えないが、認知度は高評価群の学生ほど高く、一方で中評価群の学生は、これらを有効に利用しようとしていたことがうかがえる。

また、PE能力についての満足度については、やはり高評価群ほど満足度が高いという結果が示された。

表 1 A

PE指標	高評価群	中評価群	低評価群
知らない	24%	35%	50%
意識しなかった	65%	49%	50%
履修科目を選んだ	8%	14%	0%
勉学に取り組んだ	2%	1%	0%

表 1 B

学習相談室	高評価群	中評価群	低評価群
知らない	41%	42%	50%
必要ない	33%	28%	17%
機会がなかった	12%	19%	17%
有意義でなかった	4%	6%	17%
有意義だった	10%	6%	0%

表 1 C

PE能力満足度	高評価群	中評価群	低評価群
修得できず不満足	6%	16%	33%
十分ではなく不満足	38%	51%	67%
十分ではないが満足	54%	33%	0%
十分に満足	2%	0%	0%

6. おわりに

卒業直前に本アンケートに協力してくれた学生たちの回答を分析することで、第一に本学部が従来から重視し、より力を入れてきた「専門演習科目」が高い評価を受けていることが分かった。同時に、現在は開講クラス数がそれほど多くない「論文演習」「キャリア形成ゼミ」等が評価されていることも判明した。

これらを勘案しながら、より実効的な教育に取り組んでいきたい。

一方、PE指標・学習相談室への認知度と利用はまだまだ不十分であり、学生への周知と利用を呼び掛ける必要がある。

注

- 1) 経済学部では、卒業論文は必修科目ではなく、他の講義・演習科目の単位で代替することができる。卒業生のうち、卒業論文執筆学生はおおよそ80%である。
- 2) 逆に、本アンケート調査に回答した者の中にも、単位不足等で2011年度には卒業できなかった学生も含まれている可能性がある。
- 3) 6つのスキルとは、「情報収集」「プレゼンテーション」「課題発見」「経済学的分析」「論文執筆」「コミュニケーション」を指し、1つのアビリティーとは、「複眼的構

想力」を指す。

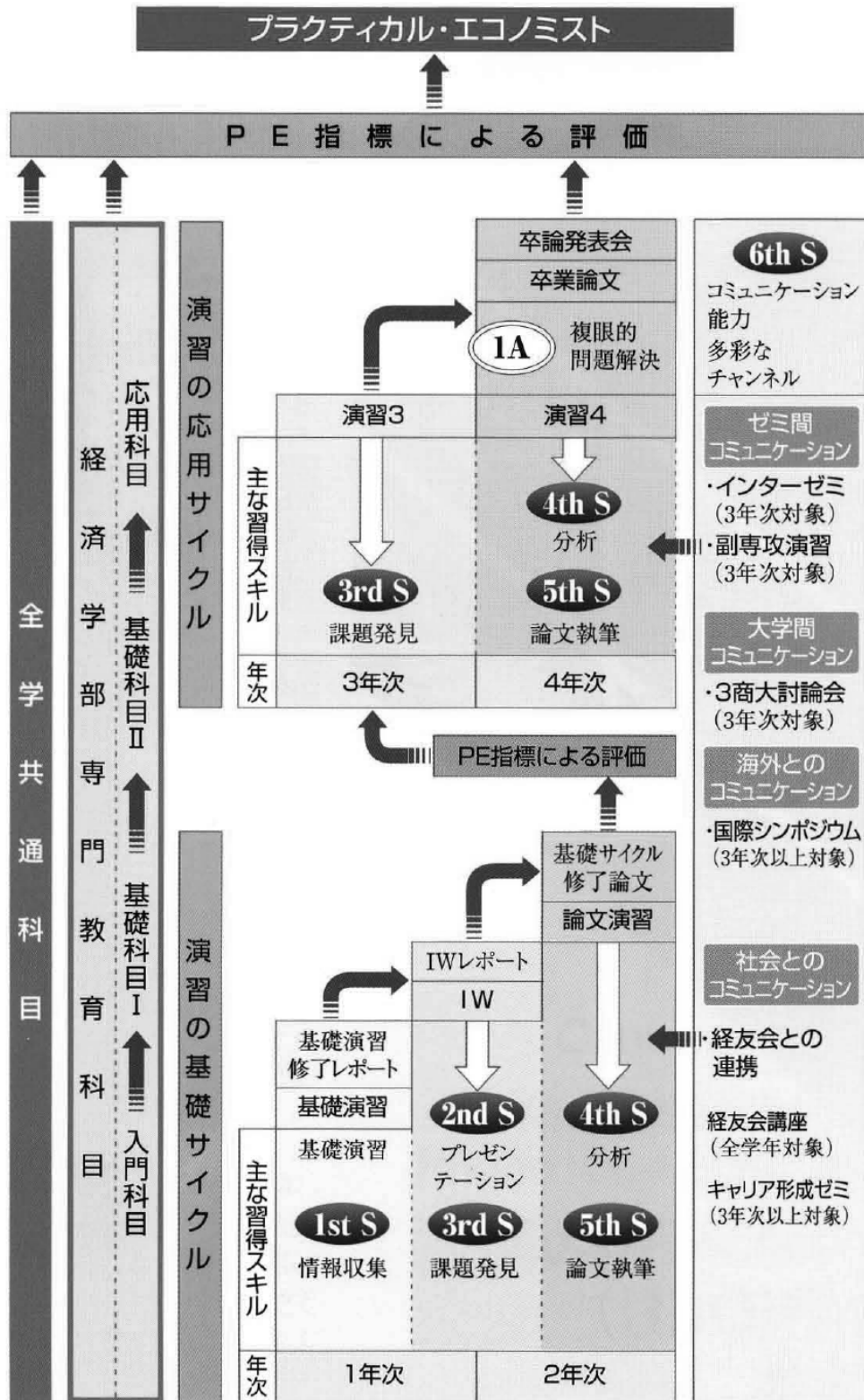
- 4) 逆にいえば、25%もの学生が、「変化していない」あるいは「低下した」と回答しているので、この理由と対策について十分に検討する必要がある。特に「若干低下」「低下」と答えた学生は、どの項目でもおおよそ5%である。これは、実人数にして6～7名ということになる。
- 5) 「インターゼミ」は、一泊二日の合宿形式で、演習3履修者がゼミ毎にプレゼンテーションを行い、競い合うというもの。「国際シンポジウム」は、韓国・全南大学、中国・吉林大学、大阪市立大学の三大学の学生が英語でプレゼンテーションを行い、討論するというもの。
- 6) 以下の分析では、6S+1Aのすべての項目に「1. 低下した」を選択し、要因として「授業がためにならなかった」と回答した2名を除外して分析を行っている。統計的に「外れ値」であり、後の分析に偏った影響を与えると考えられるために除外しているが、この2名も本学部で4年間（またはそれ以上）学修した学生であることは間違いないので、統計上の対処とは別に、その理由と対策を検討していく必要がある。

参考文献

- 橋本文彦（2010）、「経済学士に必要な能力と、その測定・評価 ―PE指標―」、『大学教育』、第8巻、第2号、55-61.
- 中村健吾（2010）、「経済学部・経済学研究科の事例」、『大学教育』、第8巻、第2号、33-39.

【別紙1】

【図1】 OCUのプラクティカル・エコノミスト養成カリキュラム



(「OCUからpractical economistが羽ばたいていく」大阪市立大学経済学部発行 から引用)

【別紙 2】

経済学部の演習カリキュラムに関するアンケート									
2012年1月									
大阪市立大学経済学部									
今年度に卒業を予定されている経済学部生の皆さんは、プラクティカル・エコノミスト(以下、「PE」と略記)の養成を目指して整備された経済学部の新しい演習カリキュラムを1年時から履修した最初の学年に属しています。									
この演習カリキュラムの改善に役立てるために、以下のアンケートにぜひご協力ください。									
良い例:									
悪い例:									
* 以下の質問では、左の例のように、線分の交点に○を付けてください									
大学入学時よりかなり向上したも									
大学入学時より若干向上したも									
変化して入学時より									
大学入学時よりかなり向上したも									
大学入学時よりかなり低下したも									
大学入学時より若干低下したも									
確かな情報を収集するスキル									
プレゼンテーション(発表)のスキル									
課題または問題を発見するスキル									
経済学的な分析のスキル									
論文執筆のスキル									
他者とのコミュニケーションのスキル									
多様な見方を総合して問題解決の方策を構想する能力(複眼的構想力)									

* 左の評価の理由(あてはまる項目すべてに☑を入れてください)

☐ 基礎演習	☐ IW	☐ 論文演習	☐ キャリア形成ゼミ
☐ 演習3	☐ 演習4	☐ 卒業論文	☐ インターゼミ
☐ 国際シンポジウム		☐ 三商大ゼミ	☐ その他専門講義科目
☐ 全学共通教育科目		☐ サークル	☐ アルバイト
☐ 授業に出席しなかった		☐ 授業がためにならなかった	

* 左の評価の理由(あてはまる項目すべてに☑を入れてください)

☐ 基礎演習	☐ IW	☐ 論文演習	☐ キャリア形成ゼミ
☐ 演習3	☐ 演習4	☐ 卒業論文	☐ インターゼミ
☐ 国際シンポジウム		☐ 三商大ゼミ	☐ その他専門講義科目
☐ 全学共通教育科目		☐ サークル	☐ アルバイト
☐ 授業に出席しなかった		☐ 授業がためにならなかった	

* 左の評価の理由(あてはまる項目すべてに☑を入れてください)

☐ 基礎演習	☐ IW	☐ 論文演習	☐ キャリア形成ゼミ
☐ 演習3	☐ 演習4	☐ 卒業論文	☐ インターゼミ
☐ 国際シンポジウム		☐ 三商大ゼミ	☐ その他専門講義科目
☐ 全学共通教育科目		☐ サークル	☐ アルバイト
☐ 授業に出席しなかった		☐ 授業がためにならなかった	

* 左の評価の理由(あてはまる項目すべてに☑を入れてください)

☐ 基礎演習	☐ IW	☐ 論文演習	☐ キャリア形成ゼミ
☐ 演習3	☐ 演習4	☐ 卒業論文	☐ インターゼミ
☐ 国際シンポジウム		☐ 三商大ゼミ	☐ その他専門講義科目
☐ 全学共通教育科目		☐ サークル	☐ アルバイト
☐ 授業に出席しなかった		☐ 授業がためにならなかった	

* 左の評価の理由(あてはまる項目すべてに☑を入れてください)

☐ 基礎演習	☐ IW	☐ 論文演習	☐ キャリア形成ゼミ
☐ 演習3	☐ 演習4	☐ 卒業論文	☐ インターゼミ
☐ 国際シンポジウム		☐ 三商大ゼミ	☐ その他専門講義科目
☐ 全学共通教育科目		☐ サークル	☐ アルバイト
☐ 授業に出席しなかった		☐ 授業がためにならなかった	

* 左の評価の理由(あてはまる項目すべてに☑を入れてください)

☐ 基礎演習	☐ IW	☐ 論文演習	☐ キャリア形成ゼミ
☐ 演習3	☐ 演習4	☐ 卒業論文	☐ インターゼミ
☐ 国際シンポジウム		☐ 三商大ゼミ	☐ その他専門講義科目
☐ 全学共通教育科目		☐ サークル	☐ アルバイト
☐ 授業に出席しなかった		☐ 授業がためにならなかった	

* 左の評価の理由(あてはまる項目すべてに☑を入れてください)

☐ 基礎演習	☐ IW	☐ 論文演習	☐ キャリア形成ゼミ
☐ 演習3	☐ 演習4	☐ 卒業論文	☐ インターゼミ
☐ 国際シンポジウム		☐ 三商大ゼミ	☐ その他専門講義科目
☐ 全学共通教育科目		☐ サークル	☐ アルバイト
☐ 授業に出席しなかった		☐ 授業がためにならなかった	

あなたは、自分のPE指標（プラクティカル・エコノミスト指標）の値をどのくらい意識していましたか？

	知らなかった	意識して自分の指標値を選んだ	自分の指標値を伸ばせるように履修科目を選んだ	自分の指標値を伸ばせるように勉学に取り組んだ
--	--------	----------------	------------------------	------------------------

PE指標値

-----	-----	-----	-----
-------	-------	-------	-------

経済学部一階には「学習相談室」が設置され、学習上の相談に乗るために大学院生が常駐しています。この学習相談室について、あなたが思うところに○をつけてください。

	知らなかった	自分には不要だったのではない	活用したかったがその機会がなかった	利用したが、あまり有意義ではなかった	有意義に活用できた
--	--------	----------------	-------------------	--------------------	-----------

学習相談室

-----	-----	-----	-----	-----
-------	-------	-------	-------	-------

あなたは、入学してから今日まで、PEとしてのスキルまたは能力を総じてどのくらい修得したと自己評価しますか？

	ほとんど修得できなかったが残る	十分修得できなかったが残る能力	十分修得できなかったが残る能力もあるが、満足である	能力を十分修得できていた
--	-----------------	-----------------	---------------------------	--------------

PE満足度

-----	-----	-----	-----
-------	-------	-------	-------

経済学部の演習カリキュラムについて、なにかご意見があれば、自由に書いてください。

ご協力、ありがとうございました。